

(別紙様式)

平成30年度 京都府立農芸高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)						
<p>1 目指す教育 質実剛健の校訓のもと、高等学校における普通教育と農業に関する専門教育を施すことにより、社会人基礎力を養い、農業教育で培った知識・技術を活かし、生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を備えた、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>2 目指す学校 京都府農業教育の唯一の専門高校として、地域や関係諸機関等に信頼される学校づくりを基本とし、</p> <p>(1) 社会から求められる人材を育成する学校 (2) 農業や農業に関連する分野で活躍する職業人を育成する学校 (3) 農業専門高校にふさわしい高度な専門性を追求する学校を目指す。</p> <p>3 目指す生徒 (1) 夢と希望を持ち、未来を展望する力をもつ生徒 「展望する力」 (2) 生命を慈しみ、他を思いやり、つながる力をもつ生徒 「つながる力」 (3) 質実剛健の気風を培い、挑戦し続ける力をもつ生徒 「挑戦する力」</p>		<p>1 成果 (1) 生徒の実態に応じた組織的な生活指導の推進、公開授業や生徒による授業アンケートの実施による授業改善の取組と学習指導、進路指導により、学力向上と希望進路実現に取り組んだ。 (2) 日頃の専門教科学習の成果を校内外で披露する機会を確保し、生徒の成功体験の蓄積に努めるとともに、グローバルGAP認証取得や農芸をはじめ「農業の6次産業化」の視点に基づく農業教育を推進した。 (3) 全国高等学校農業教育研究協議会生産技術・経営部会、近畿学校農業クラブ連盟大会に係わる事務局業務を成し遂げるとともに、パワーアップ部、畜産部、造園部において顕著な成果が得られた。 (4) 南丹CATVによる報道、新聞広報等を通じた積極的な情報発信により、本校の教育活動に対する地域や保護者の理解を促進するとともに、保護者対象の学校アンケートを実施し、教育ニーズの受信に努めた。</p> <p>2 課題 (1) 生徒に自己有用感と農芸高校で自ら学ぶ意欲や学習習慣の定着を図り自分の将来へのより高い志や目標を持たせ、生徒が希望する進路実現すること。 (2) 地域との連携活動をさらに進め、信頼される教育機関としての取組の進化を図り、定員を充足する志願者を確保すること。 (3) 部活動、農業クラブ専門部への加入率を高めるなど諸活動の活性化と心身共に健康な生徒の育成を目指すし、組織的、計画的な取組をさらに進めること。 (4) 農業専門高校として、専門性の高い研究や行政機関と連携した農業の担い手育成に関わる取組を推進すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「挑戦と進化！！目指せ Next Stage！！」</p> <p>2 学校経営の重点事項 (1) 主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上 ① 主体的・対話的で深い学びを目指し、授業・実習における指導方法の工夫・改善と基礎的、基本的な事項の定着を目指す。 ② 生徒の学力向上に資する生徒による授業アンケートと適切な評価規準に基づく適正な評価を実践する。 (2) 専門高校としての特色のある活動の推進と生徒の成功体験の蓄積 ① 学科・コースの特性を踏まえ、「農業の6次産業化」の視点に基づく教育活動の推進に取り組む。 ② 農業クラブにおける「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 (3) 本校の将来構造に関わる調査研究を継続し、新たな学科・コースの構想を踏まえた活動に挑戦する。 (4) 積極的なキャリア教育の実践による生徒の個性・能力に応じた進路実績の構築 ① 3年間を見通した進路学習、インターンシップ等により、勤労観と職業観を計画的に育成する。 ② 地域、企業、大学等と連携し、外部人材を活用するなど職業人としての高い倫理観と社会人基礎力を培う。 (5) 人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着 ① 保護者、関係機関との連携を軸に、すべての教育活動を通して生徒密着型・問題解決型の生活指導を組織的に推進する。 ② 寮教育を通して適切な社会性を身に付けさせ、自立心、協調性、責任感を育むなど、きめ細やかな寮教育を実践する。 (6) あらゆる教育活動を通じた人権教育の推進 ① 自他の人権と生命を大切に、良識ある公民として共生社会を主体的に生きる力を育成する。 ② 特別な支援を要する生徒の教育ニーズを適切に把握し、関係機関とも適切に連携し、組織的な合理的配慮による特別支援教育を推進する。 (7) 信頼される開かれた学校づくりの推進 ① 「農芸祭」をはじめ日頃の学習成果発表の場を数多く確保し、生徒の姿を披露するなど教育活動を広く府民に公開する。 ② 新聞広報、南丹市CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信するとともに、教育ニーズの把握に努め、定員を充足する志願者を確保する。</p>						
分掌/教科名	評価領域(業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評点	評価	成果と課題			
管理職	組織運営	農業専門校として特色ある活動を通して、生徒の成功体験を蓄積し、社会人基礎力と自己有用感を育む。	農業クラブ活動をはじめとする各種競技会や諸活動等への積極的な参加を促進し、学校への帰属意識と成就感が涵養できる教育環境や機会を整備する。	3	C	(成果) ・各種競技会やボランティア活動等への参加を生徒の成長の好機と捉え、積極的に挑戦させるべく働きかけを行った結果、競技会への参加件数や諸活動の機会が増え(府学校農業クラブ連盟主催競技会等への参加者が前年度比約2.3倍)、生徒の成長を促す成果を得ることができた。また、これらの活動を通して学校への帰属意識や生徒個々の成就感・達成感を養うことができた。 ・農業科はもとより普通教科においても「主体的・能動的な深い学び(アクティブ・ラーニング)」の授業が定着し、生徒が授業に臨む姿勢に一定の成果がみられた。また、このことが観点別評価や評価規準の不断の見直しにつながり、より公正で厳密な評価・評定に結びついてきた。 ・農林行政や関連産業・企業、大学、専門学校等との連携が昨年度に比べ増えた結果(前年度比約2倍)、専門教育の充実や生徒の望ましい職業観・勤労観の醸成につながり、就職希望者全員が就職を決め、うち約9割が第一志望の事業所であった。			
		主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力向上に努める。	生徒による授業アンケート結果をフィードバックし、授業・実習における指導方法の工夫・改善と適正な評価規準に基づく評価で、生徒の学ぶ意欲がより高まる授業展開を目指す。	3		3	C	C	
		組織的・計画的なキャリア教育の実践により、職業人としての高い倫理観を育成し、希望進路を実現する。	地域・関係機関・大学等との連携活動や計画的・系統的な進路学習により、実体験をおとして健全な勤労観・職業観が育まれる進路指導を全教職員で実践する。	3		C	(課題) ・競技会等への参加件数は増えたものの、競技結果については目指していた入賞数等、所期の目標に到達できなかった。確かに素晴らしい成果を出した活動もあったが、指導方法の創意工夫や指導時間の確保、指導体制の整備等、すぐにでも改善が必要な分野が浮き彫りになった。 ・教職員によってICTの活用に差ができてつづつある。積極的にIT機器を用いて授業を展開する教員がいる一方で、あまり積極的ではない教員もあり、技術の進歩が目覚ましい現代にあつて、どのように啓発していくべきか、待ったなしの姿勢で模索する必要がある。 ・外部連携先が増えているが、その分通常の授業や業務への影響が出る場面もあり、教職員への負担も増えた。各連携事業は、確かに生徒にとっては広い世界への窓口となったり、成長のきっかけとなったりしているが、機会を増やしていくことに対して年間指導計画のなかでバランスを保っていくことも必要である。		
事務部	学習環境	奨学金をはじめとする保護制度の周知を図り、学校預り金等の滞納家庭を解消する。	教室掲示、プリント配布はその都度速やかに行い、学校預り金等滞納気味の家庭については、担任との連携を密にすることで、早期に解決を図る。	4	3	C	C	-奨学金、各種保護制度を希望する家庭には周知ができ、滞納件数は減ったが無くなるまでにはいかなかった。 ・節電などの提案はできたが、年間を通しての取り組みにばらつきがあり、徹底できなかった。また、様々な分野において費用対効果を意識して、取り組んでいく必要がある。	
		学校予算の効率的な執行に努める。	無駄を省き、節約に関する具体的な提案を行っていく。	3					
教務部	学習指導	社会人として最低限求められる基礎学力の定着を図り、組織的かつ継続性を持った学習指導の確立に向け授業の工夫・改善を図る。	社会人として最低限求められる基礎学力の定着を図り、組織的かつ継続性を持った学習指導の確立に向け授業の工夫・改善を図る。	3	3	C	C	・各教員に授業改善を呼びかけ、新学習指導要領の実施を視野に入れた、公開授業や研究授業等の取り組みができた。	
		主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上を目指す。	専門高校の特色を活かして、学習面における生徒の成功体験の増加を図る。	4				C	・外部機関との連携事業や外部講師の活用など、専門高校の特色を活かしながら、各教科ごとの教育目標に合った「生徒が主体的、探求的に学べる時間」を設けることができた。 ・「授業開始の五箇条」の徹底的については、継続的に授業規律の確立を目指し、教員全員が常に意識し、実践し続けることが課題である。
		人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着を図る。	「授業開始の五箇条」を徹底的に生徒に浸透させ、授業規律の確立を目指す。	3				C	
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全教職員によるあらゆる教育活動を通じた生活指導を徹底するとともに、マナーを向上させることで規範意識を高める。	3	3	C	C	-いじめ防止基本方針の改訂を行うとともに、対策委員会や取組を計画通りに進めることができた。 ・交通安全教室を実施するとともに、校外巡視・毎朝の登校指導を行うことで、生徒の危機管理意識を高めることができた。	
		いじめ等の問題行動の未然防止	生徒の実態把握に努め、生徒密着型・問題解決型の生活指導により問題行動の未然防止に努める。	3				C	・「部活動指導指針」を策定することができた。 ・部活動の加入率は向上しているものの、継続性と活発な活動に課題がある。今後、部活動やボランティア活動等、生徒が活躍できる場の提供と、継続して部活動等に取り組める体制整備が必要である。 ・生徒の特性を理解した効果的な指導方法の模索と、生徒の実態に応じた特別指導の在り方を検討する必要がある。
		生徒会活動・部活動の活性化	加入率、継続性を高め、達成感・充実感を得られる部活動・生徒会活動を展開する。	3				C	・人とのコミュニケーションの取り方が課題の生徒に特別指導や暴言が多い。外部機関との連携や、更なる人権意識の高揚が必要である。
進路指導部	進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップの活性化や卒業生講話の実施	3	3	C	C	・例年同様の取組はできたものの、学年のカラーに応じた取組に改善の余地があった。 ・部内での業務の汎用化を進め、チェック体制を強固なものにしていく必要性を感じた。 ・学年団との連携を密にして、学習合宿の参加者を増やす取組が必要と考えた。また、進学セミナーの継続受講者の増加にも課題を残した。 ・社会人基礎力の向上策として、各種講演会を実施したが、特段の変化を感じなかった。次年度については挨拶をはじめとするマナー面での改善策から講じていきたい。	
		学力の向上	進学セミナー、学習合宿、基礎学力補習の更なる充実	3				C	
		社会人基礎力の育成	日常の指導に加え、外部講師を活用して、マナーや職業観を身に付けさせる	3				C	
保健部	特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために特別支援教育を推進し、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実させる。	定期的な特別支援教育会議を開催するとともに、必要に応じたケース会議を開催。複数の特別支援教育コーディネーターによる実態把握と外部機関との連携、個別の指導計画の作成及び定期的な見直し、卒業後の進路先への個別支援計画の引き継ぎ。	4	4	C	C	-共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育構築のために特別支援教育を推進し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた対応に取り組んだ。 ・定期的な特別支援教育会議を開催するとともに、必要に応じたケース会議を開催し、要支援生徒に対して適切な対応ができるよう努めた。 ・複数の特別支援教育コーディネーターによる実態把握と外部機関との連携を推進するとともに、個別の指導計画の作成・見直し・評価について協力を求めた。	
	校内美化	ゴミの分別など環境を守る意識を養う。	意識を向上させるための啓発に取り組むとともに、清掃指導を確実に行う。	3					
	安全教育	マシ・蜂などの危険生物に対する知識を身に付けさせる	HR担任と協力し危険防止の啓発に努める。	3					
総務部	生徒募集	オープンスクールの日程や内容を検討し、参加者数の変化やアンケートなどを昨年度までと比較することで、中学生・保護者のニーズを把握し、志願者増加につなげる。さらに、前年度より実施している出前授業にも積極的に取組み、教育内容の魅力を発信する。	農芸祭を含めて、8月、10月、11月、12月とオープンスクールを実施しているが、特に、中学校の進路指導と中学生のニーズに合うように10月に専門学科体験を実施するよう変更する。また、8月には部活動体験を開催し、高校生活の楽しさや、学校の雰囲気を知っていただき、進路選択の候補として2学期以降も残るようにする。出前授業については、リフレットを中学校へ配付し、中学校訪問でもPRして周知したい。	3	3	C	C	・学校公開の内容・日程改善や中学校訪問の改善が参加者増加につながったが、志願者増加には至らなかった。 ・ホームページの更新や部分的改善を進めることができた。また、ホームページの刷新に向けた検討を進めることができた。一方で、記事更新についての重要性を校内で周知することに課題が残った。 ・学校行事などでPTAと連携し、学校教育活動を充実につなげることができた。また、会計や会則の改善について検討することができた。	
	広報活動	ホームページを活用した教育成果の発信をさらに充実させ、中学生、その保護者、そして府民にとって魅力がある学校であると理解していただけるよう努める	ホームページの更新回数を昨年度実績を維持し、校内の様子や生徒の姿を掲載するとともに、フェイスブックを利用した情報発信を開始し、スマートフォンに対応した広報を研究する。	3					

	PTA活動	生徒の教育活動充実のためPTA会員と連携して取り組む。	農芸祭やロードレース、式典などにおいて、PTAの協力を得るとともに、広報誌などを通じて活動を全会員に周知し、連携できるような努める。	3		C	
農場部	農場管理・運営	適切な農場運営と安全を確保した実験・実習の展開	学科・コースと連携し、農場運営に必要な経費の確保に努め、円滑な農場運営を目指す。	3	3	C	C
			危険箇所や修繕が必要な箇所を把握し、実験・実習が安全に展開できるように努める。	3		C	
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会において、府連大会、全国大会での入賞を目指した指導を行う。	4	4	B	B
			資格取得・各種コンテスト・ボランティア事業・地域連携事業など、クラブ員が活躍できる場を数多く提供する。 担当者が変わっても運営に支障がないように農芸祭をマニュアル化する。	4		B	
特色化事業	専門高校としての特色ある活動の推進	GLOBAL G.A.P. 認証を他の品目でも取得し、地域農業者の見本となる国際水準GAPモデル農場を目指す。	4	4	B	B	
寮務部	寮教育寮運営	寮生活と学習を密着させ、自己有用感の高揚を図るとともに、自己実現に向けて努力することのできる生徒を育成する。	自発的な挨拶の定着と基本的な生活習慣の確立を図り、社会性を身に付けさせ自律を促す。	3	4	C	B
			学習時間を有効活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	4		B	
			厳しくも温かく気持ちのある指導を実践し、きめ細やかな生活指導と規範意識の向上を図る。	4		B	
第1学年部	指導方針	学習指導・生徒指導・生活指導・進路指導を基本として、指導方法の工夫・改善を行う。	自発的な挨拶や学習習慣を定着させ、進路実現を見据えた意識付けを行い、社会性の涵養を目指す(寮生は寮務部と連携し、指導にあたり、通学生は、女子集会を通じて意識付けを行う)。	3	3	C	B
		基礎学力向上に向けた学習習慣の定着	分掌や各教科間と連携を密にし、個々の学力を把握し基礎学力向上に向けた学習会を学年で行うことで、結果にこだわるための行動や意識を持たせる。	3		B	
		農業教育に対する肯定感を高め、自己有用感の高揚を目指す	農業分野の活動や学校行事に積極的に取り組むとともに、キャリア教育を通して農業を学ぶことの肯定感を高める指導を行う。	4		B	
第2学年部	指導方針	「達成体験」を重視した指導の実践。	専門分野の学習や学校行事の機会を活用して、主体的・対話的で深い学びを実践するとともに、生徒が挑戦し続ける指導を実践する。	4	4	B	B
		協力・協働の集団を目指す指導の実践。	修学旅行をはじめとする学校行事において一人一人が活躍できるステージを持てるよう指導する。	4		B	
		自己管理能力の向上を目指す指導の実践。	基本的な生活習慣の確立と挨拶・服装などのマナー指導の徹底、及びスマートフォンとの付き合い方に関する指導を重点的に行う。	3		C	
第3学年部	指導方針	社会に通用する人間形成	生徒に自己有用感と農芸高校で自ら学ぶ意欲や学習習慣の定着を図りつつ『あいさつ・時間厳守・清掃の徹底』『気持ち・行動にメリハリをつける』『思いを言葉で伝える』これら社会人としてあたりませのことを当たり前にできる人間へと成長を促す	2	2	D	C
		人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着	体育祭、農芸祭等の学校行事、各コースでの取組み、ボランティア活動を通じて、社会人基礎力を身につけ、集団・個人としての自律・自立をはかる	2		D	
		保護者と連携した、生徒の満足度が高い進路指導	自分の将来へのより高い志や目標を持たせ、生徒が希望する進路実現にむけて、保護者と連携のもと適切な進路指導を進めていく	3		C	

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○本校教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科改編について、推移を注視したい。どういった学科・コースを設置するのか。 ・私学では投資を行い、広報宣伝で攻勢をかけ、充実した施設設備を整えている。 ・中学校教員に対するPRが不足しているのではないかと。 ・2年次からのコース選択に際して十分な時間を確保して、生徒の希望を聞くべき。 ・1年次のうちに学び直しや学力差を埋める機会・時間をしっかりと確保すべき。 ・いじめや人権に関わって、生徒が教職員に相談しやすい雰囲気づくりを望む。 ・1年生男子全員入寮にはメリット・デメリットがあるが、寮生活は貴重な経験となる。 ・社会一般に寮生活へのマイナスイメージが流布し、敬遠されているように思える。 ・女子の入寮や下宿について、現状でも実施できる対策があるのではないかと。 ・現在のところ大きないじめや問題はないと聞いているが、初期対応が重要だ。 ・生徒間トラブルへの対応、教員間の情報共有の態勢はどうなっているのか。 	<p>○本校農業専門教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習での一生懸命で生き生きとした生徒の姿が印象的であった。 ・落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されていた。 ・授業中寝ている生徒も少なく、緊張感のある授業が展開され、頼もしく思った。 ・教師の力量・タイプによって生徒の食いつき具合が変わっていた。 ・特別講座を開講し、資格取得に特化した高校になっていてはどうか。 ・高校時代に、本日参観したような農業専門科目の授業を受けてみたかった。 ○生徒会・農業クラブ役員との座談会について ・今年度初めて座談会を実施したが、大変よかった。後日農芸祭で役員の生徒に声を掛けることができた。 ・農芸高校を志願した理由、部活動加入状況、学校行事の運営等について聞きたい。 ・夏の甲子園を沸かせた金足農業高校の活躍について、同じ農業高校生として何か思うところはあったか。 ・日本の農業の行く末について、どのように考えているのか。 	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで、「わからない」とする回答が多く見られる項目があったが、保護者への周知が不足しているのではないかと。 ・さまざまなメディア、チャネル、機会を通じて、積極的に情報発信すべきである。 ・アンケート実施自体をしっかりと保護者に事前に周知すべきである。 ・近隣にキャンパスをもつ大学が名称を変更するが、そのキャンパスに設置されている農業関連学部がこの先どうなっていくのか。 ・近畿圏内の大学に農学系学部を新設する動きが出ているが、生徒の志願状況に変化はあるのか。 ・貧困家庭の問題が「ローズアップ」されているが、諸経費の未納・滞納状況はどのようなもので、その対応はどうしているのか。 ・SNS利用には批判も強いが、双方向コミュニケーションのツールとなり得、プラスの発信もあることを知っておいてほしい。 ・教職員の「働き方改革」の進捗状況はどうか。特に土日勤務も含め、どのような現状で、どのような対応をとっているのか。 ・農業教育は生き物を相手に行っているため切り捨てられない部分が多くあり、労働時間短縮に限界があることも理解できる。 ・少子化で一人っ子が増える中、農芸高校には寮教育もあって社会性を養うには大変有意義である。 ・農業教育は、生き方について悩み、もがいている生徒にとって新たな自分に出会える機会を多く提供している。
-------------------------	---	--	--

次年度に に向けた改善の 方向性	<p>(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革が喫緊の課題であるため、業務の精選や業務分担の見直し、分掌間協力体制の構築、補佐役となる人員の配備等、組織運営にひと工夫加える。 ・教育ツールのIT化が急激に進展しているため、これら機器を導入するだけでなく、授業・実習等において有効活用できる教員を育成する。 ・外部の機関や人材と交流することは、教育上意義はあるが最大限の教育効果をあげるために事前事後に適切な指導を行う等、計画的・組織的に実施する。 ・教職員が一致した方針・姿勢で指導するための研修や啓発を行う等、教職員一人ひとりの指導力の更なる向上を図る。 <p>(事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度「高等学校等修学学金」、「高校生給付型奨学金」等については保護者への支給制度が変わるのを受け、学校が確実に必要経費を引き落とし、未納者・滞納者をなくす。 ・来年度は学校運営費、実験実習費とも今年度比15%減でスタートするため、経費節減のための様々な取組を積極的に取り入れ、効率的な予算の執行に努める。 <p>(教務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務について、確かな引き継ぎ・業務のマニュアル化・チェック体制の強化・慣例に頼らない改善・業務分担の見直し ・学科改編について、効果的な講座・時間割の編成 ・新学習指導要領について、施行に向けた指導計画の作成 ・年間行事計画について、行事等の見直し <p>(生徒指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動やボランティア活動等、生徒が活躍できる場の提供と、継続して部活動等に取り組める体制整備(時間・通学・顧問) ・生徒会役員等、リーダー的存在生徒の育成 	<p>(生徒指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性を理解した効果的な指導方法の模索 ・生徒の実態に応じた特別指導の在り方の検討 ・生徒の規範意識の高揚、マナー指導の徹底 ・更なる人権意識の高揚 <p>(進路指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦の公示・受付を改定した手順で実施する。 ・生徒個々の進路指導方法を早期に決定するためにも、進路検討会を実施する。 ・企業見学引率に学年団の協力を得る。 ・進路部内の業務の汎用化を更に進める。 <p>(保健部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度に引き続き複数コーディネーター配備を要し、実態把握・具体的支援を推進できるよう努める。 ・ICT活用の具体的方法や不登校(教室に入りにくい)生徒のための別室の設置について取り組む。 ・担任団との連携を密にし、適時適切な会議の開催と情報の発信に努める。 <p>(総務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成部数の縮小とポスターの早期作成配布 ・中学校訪問の機会増加を検討 ・HP刷新の具体案作成 ・保護者連絡メールの条件整備 <p>(農場部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種発表会・競技会に出場するだけでなく、入賞するレベルにまで引き上げるような指導を行う。 ・3年間の学習成果発表の場となる課題研究発表会を学校行事として実施する。 ・施設・設備の更新・修繕は継続して実施し、より一層安全に実験実習が展開できるようにする。 	<p>(寮務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康・衛生関連施設設備の老朽化対策 ・舎室内冷房設備工事の着工準備及び床暖房の修繕 ・災害時における寮生の動静確認及び災害非常食の常備(寮生会費による購入) ・設備上の課題に伴う入寮期間の短縮化に対する検証 ・舎監業務後の休息時間の確保 ・女子帰省用紙の在り方についての検討 <p>(第1学年部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の進路を意識した学校生活を送らせるような指導を行う。 ・コミュニケーション能力の向上を目指す取組を行う。 ・進路部と連携を図りながら、進学希望者はオープンキャンパスに参加するように、就職希望者は自発的に職種調べをするように指導を行う。 <p>(第2学年部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して資格取得やボランティア活動に積極的に挑戦するように指導を行う。 ・授業の様子や実態を担任が把握するためにも定期的に教科担当者会議を実施する。 <p>(第3学年部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの場面で文章の意識がもてるよう、各教科と連携して文章指導の機会を提供する。 ・自己管理の指導では重要性を伝えるだけでなく、具体的な行動を伴う指導を実践していく必要がある。 <p>(人権教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の計画については、各学年とも年度当初に熟考する。 ・教職員人権研修について、講師選定や調整、内容の検討を十分に行う。 ・教職員人権意識向上やSNSの適切な使用、ハイトスピーチを含めた人権侵害を許さない学校風土を醸成する。 ・各種関係機関や地域の人権センター等との連携をより一層密にするとともに、人権教育への活用を図る。
------------------------	---	--	--